

特別の教科 道徳 「共に生きる心」

横浜市立元石川小学校



単元（題材）目標

- 福祉体験的な活動を通して、障がいを理解し、共生社会に生きる子どもを育成する。
- よりよい生活を送るために、自分ができることは何事にも挑戦していこうとする態度を養う。

（1）実施時期

令和元年 11 月上旬

（2）対象（学年等・人数）

第 3 学年 63 名 小学校教員 2 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第 3 学年担任 2 名

外部講師：青葉区聴覚障害者協会 1 名、青葉区社会福祉協議会 1 名



（4）実施内容

①手話だけによる講話（各学級）

- ・簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）

②手話体験：各学級で手話実践

- ・講師 1 名（聴覚障害者協会の方）、手話通訳 1 名（社会福祉協議会の方）
- ・手話に関する基本的知識（色・濃淡・同じ・違う等）
- ・手話における拍手の仕方

③手話を介した講話：「聴覚障がい者の生活について」（各学級）

- ・聴覚障がいの方の生活において工夫していることや、手助けしてほしいことについての話を聞く。（手話通訳あり）

◎「各自が今後の生活の中でどのように生かしていくか」という視点から振り返る。

- ※相手のことをわかろうとする気持ちや、自分の生活をよりよくする工夫や態度を大切にしようとするような指導を心がけた。

（5）成果

○講師の話や手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

○手話に興味をもち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

（児童感想 一部抜粋）

- ・「できることは、何でもやる。」という講師の先生のメッセージが印象的でした。いろいろなことに挑戦したいと思いました。

（6）その他

○人権週間の取組として学習し、感想を作文にまとめ、代表者が学校全体に発表した。